

頑張れ我が 北海道コンサドーレ札幌

札幌市医師会
札幌明日佳病院

藤嶋 卓哉

1996年発足時よりコンサドーレを応援しています。貧乏クラブ故、J1に昇格しても翌シーズンにはJ2降格を繰り返してきました。元日本代表監督の岡田武史氏が指揮した2001年に残留しただけで悔しい時期が続きました。それでも地元のクラブを応援できる幸せを実感し、家族とともにホームはもちろん、時々アウェーにも応援に行き、十分満足しておりました。2012年に4度目のJ2降格を経験した翌2013年に潮目が変わります。2001年のキャプテン、野々村芳和氏の社長就任です。徐々にクラブの収入を増やし、2014年にはサッカーファンなら夢のような小野伸二の加入、2015年には稲本潤一加入と全国的话题を発信。北海道全域をホームタウンとし、北海道コンサドーレ札幌とチーム名を改めた2016年にJ1昇格を果たしました。2017年はチームの宝である四方田監督で16年ぶりのJ1残留。大声で歓喜したあの瞬間は忘れられない至福の時間です。当然、監督続投と思いきや、当たり前人間には思いもつかない名将ペトロヴィッチ監督招聘。コンサドーレが勝つにはがっちり守り、カウンターで得点という固定観念しかない私ですので、超攻撃サッカーを志向する指揮官就任は、数年先にいいチームになったとしても、今年はJ2降格もやむを得ないと覚悟したものです。しかし、2018年は若手を起用し、攻撃サッカーで堂々と4位で残留。2019年は話題となったルヴァンカップ準優勝を成し遂げました。この3シーズンは私には夢に見ていたことが現実になったという状態です。これも常に将来を考える社長、信念を持って観客が楽しめる攻撃サッカーを行う監督、二人の力に依るところが大きく、そして、両者はリスクはあってもより良いものを目指すという点で似ているように思えます。サポーターとしてはもちろん、還暦間近となった医師としての私にも刺激となります。普段、無難な選択をしがちですが、定番の決まっていな、選択肢がいくつかある治療については、リスクはあっても患者にとってより利益があると判断される選択も視野に診療していこうと考える日々を過ごしております。

また、シーズンが始まります。とても楽しみで少し不安な日々が続きます。今年も応援に駆け付け、道民がわくわくするコンサドーレのサッカーを後押ししたいと思います。

好きな言葉

旭川市医師会
JA北海道厚生連 旭川厚生病院

西垣 豊

医師になって30年以上が経ちましたが、現在も日々の臨床に忙しく過ごしています。そんな私は故郷大阪を離れ、北海道旭川の地に来て40年近くになります。関西弁を話すことも大阪に住む兄たちと話す時くらい、普段は関西出身の芸人さんの関西弁を聞くくらいになってきました。

最近、テレビでは漫才コンクールM-1グランプリ2019で優勝した「ミルクボーイ」の姿を見ない日はないように思います。彼らの漫才は、母親「オカン」の好物や好きな人などをネタに柔らかな関西弁で推察していき、最終的に父親「オトン」の的外れの結論で落とす小気味のいいもので、本当に心の底から笑える漫才かと思えます。関西弁のイメージは怖くて威圧的に感じられる方も多いかと思えますが、ミルクボーイの漫才を聞いていると皆さんも関西弁が本当はすごく優しく柔らかい言葉だと気づかれるかと思えます。

そんな関西弁のなかでも特に私の好きな言葉は「かまへん / かめへん」(かましまへん)と「ええんちゃん / ええんちゃん」なんです。どちらも「構わない / 気にしない、いいでしょう」の意味で、細かいことを気にしない、大雑把な関西人の性格から来ているのかもしれませんが、人を許したり、好きなようにさせたりと人に優しく安心する言葉のように思います。私自身も兄や兄嫁たちに何か相談したときには大体そんな返事が返ってくる事が多く、すごく安心して背中を押されているような気持ちになるように思います。また、他人に対してだけではなく私自身に対しても「かまへん、ええんちゃん」は心に何か余裕を持たせる魔法の言葉のように思っています。

世の中では煽り運転など他人に対する寛容さが乏しくなって来ている状況がありますが「かまへん、ええんちゃん」の言葉を心に灯し、余裕を持って人に優しく生きていけたらいいですね。